



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

私の稀観本ノート その7

椎窓 猛

定年座まわり舞台

去る5月、八媛ふるさと一燈大学の講師に元NHKアナウンサー吉川精一氏を迎えた。「人生ありがとう」との演題で「のど自慢」司会体験で得られた感動的な出逢いを語られて感銘を受けた。だが、当の吉川さんが少年の頃から歌手志望で、定年後演歌に奮闘とは知らなかった。当日「逢いたや津軽」「うたかたの宿」2曲を披露していただいたが、本格的なもので聴衆拍手喝采であった。

著書もお持ちとの話で、お願いしていたところ、すぐに恵贈、「定年座まわり舞台」(読売新聞社刊)それに短篇集「ある季節の終り」の二冊。

「定年…」のほうの軸は、「のど自慢」での地方まわりで拾った貴重なエピソード。80歳の老人、落選数十回その挑戦意欲。父の死をめぐるアナウンサー業の哀歓。テレビ・ブラウン管の裏面が見えてくる。

短篇集では「風吹く村」が心魅かれた。風が無情に吹きつける村の入り口の切株に冥途行きを待っている男と出逢う不思議な物語。旨い話だが奇妙なエスプリが漂っている。

(自分史図書館館長)



そのひとみの中にも
遠い一人の私がある
私をみた
ひとみが黒く澄んで来た
一頭の馬はしづかに耳を聳て
岩の根につながれて
聖なる家族のほとりのやうに
山峡の道のほとり
青い村をすぎ
谿水の音沁みわたる



○野田宇太郎文学資料館より

小都市の図書館と併設されている野田宇太郎文学資料館より、「筑紫の詩人たち」と題された「福岡県の現代詩史」をはじめ、野田宇太郎蔵書目録、ブックレット4冊、それに去年(2004)県での国文祭「現代詩」大会入選作品集をはじめ、第15回目を数える野田宇太郎生誕祭献詩入選詩集を寄贈された。

この資料館では節目を見ては、特別展を催されているが、そのたびに貴重な写真パネルを作成され、資料をブックレットのかたちで刊行されている。

ここには館の経営管理にひときわ熱情をそそがれている中村良之館長を中心に、館にお勤めの方々の誠意あふれる尽力の結晶が拝見される。

○幾山河

井出 定之



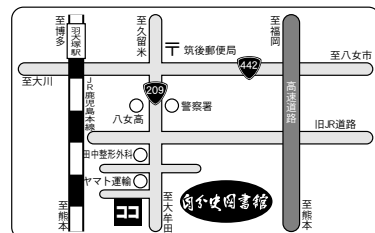
『月刊「農林年金」5月号で、自分史図書館の開館を知り感動しました。私も数年前、拙い自分史を書きました。九州の地でどなた

かがお読みいただければ幸いです、寄贈させていただきました。』

「幾山河」に添えられた信州佐久～五郎兵衛の里にお住まいの井出さんのお便りである。お仕事は獣医さん。地域の酪農振興に尽力。アメリカ・カナダでの研修、信州ミルクランド監査役、農協理事など歴任。剣道五段。「私達年代は、農は立国の大本なりと教育を受け、食糧生産の大切さを実感してきたが、現在はお金さえあれば、スーパーでなんでも買える。荒れた水田、畑の雑草を見ると心は痛み、無念」と七十年余の生涯をふりかえっての感慨。しかし精一杯生きてきたことは幸せであったと「幾山河」の人生は結ばれている。

戦後の信州、郷土を支えて歩まれたお一人と読みながらしみじみと礼讃したいと思うのであった。

開館 午前9時～午後5時 入館無料
休館 土曜・日曜、祝祭日、年末・年始、その他
休館することがあります。予めご確認ください。





○ 酔人回顧録 檀 健二郎

九州大学麻酔科から創設当初以来、福岡大学麻酔科教授として医学の道を歩み続けられた檀健二郎先生の「麻酔科45年」の実感あふれる回顧録である。

昭和16年八女中学入学、陸軍幼年学校へ。だが終戦復学、旧制福岡高校から九大医学部へ。米国麻酔科ボルヒト教授の全身麻酔の講義に、当時の若い医学生であった檀教授は関心を抱きこの道へ。「天命」であったと述べられている。

回顧録には心の支えとなった恩師、先輩、友人への感恩の想いが温かく語られていて檀教授の人柄がうかがわれる。またドイツの医師であり、作家のカロッサの文学に親しまれたことや伝記作家小島直記先生の著書の魅力についても語られている。



○ 努力の上に花が咲く 中村 ハル

「日本人としての自覚をもち、清節の風をたつとび感恩の情にとみ、労作にいそむ人格の形成に努める」ことを中村学園建学の精神として創始、生涯教育者の道をたどられ、また料理研究に情熱を燃やし続けられた先生の人生がこの一冊に編まれている。

福岡、早良の農家の二女として出生。小学高等科から師範へ。小学校訓導から女学校教諭等歴任。64歳のとき、中村割烹学院設立から大学へと拡大。昭和46年84歳で生涯を閉じられる。

先生は常に「努力の上に花が咲く」の言葉を信条に自らの教育的理想の実現に献身、学園を経営、その功績は量り知れないものがある。



○ 通りゃんせ 中嶋 恵子

「私のような取材をもとにする物書きにとって、出会う人との対話は何よりの財産」という著者のインタビュー・出逢いの記録集。

主な登場人物は――

- 福岡文化圏で活躍のおんなのひとびと
- 岸恵子さん（女優）
- 桜井よし子さん（ジャーナリスト）
- 青木秀氏（元西日本新聞社長）
- 宮尾登美子さん（作家）
- 村松友視氏（作家）
- 杉浦日向子さん（江戸学）
- 林覚乗師（僧侶）
- 元気印の高齢者たち

「行きはよいよい、帰りは怖い、怖いながらもとおりゃんせ…」この歌が小さい頃から好きだった、中嶋さんの奮闘精進の来歴もうかがわれる人生記録である。



○ マコの初恋 山浦 欣一

いささか甘い表題といった気がしないでもなかったが、まえがきを読めば真摯な思いからの着想、それにエネルギーあふれる記述に感服させられる。

山浦さんは1936年（昭和11）シンガポールで出生、郷里矢部村に戻って小中学に学び、のちに田川高校から日大第三高校卒、現在は自動車関連の職。

小学生のころ、担任の蓮尾先生の導きで俳句を詠んだ。

炭窯の煙ふたすじ春の山雲きれて月に消えけり 蛍かな

蓮尾先生との出会いがなければ文章を書くことはなかったであろうと山浦さんは回想される。出逢いは人生を左右する。

こうして幾冊もの「自分史」を根幹とした著書を編みだされている。

受贈図書紹介 ⑦

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

わがふるさと考……………秋山 喜文 太宰府市
 よみがえる生命……………向坊 弘道 北九州市
 自分史年表……………藤田 敬治 武蔵野市
 はめられた真珠湾攻撃……………三好 誠
 我が戦記……………青山 敏男
 こころ思うままに……………杉浦みな子
 山陰つれづれ……………酒井 董美 松江市
 孫たちへの伝言……………若宮 由松 三戸郡
 戦場を駈けるSL……………中村與志夫 富田林市
 自伝こぼんちゃん人生……………中岡 順弓 大阪市
 あした吹く風……………吉田麻由美 大阪市
 大太平洋戦争敗戦の真相に迫る……………加藤 卓雄 津市
 夜学生とのてんやわんや人生……………洪田 哲三 大阪市

白杖エッセイ わが心の風景 ……松本 昌三 神戸市
 南十字に夢は届かぢ……………渡辺 要三 ブラジル
 衣から食の竜平へ……………田辺 正義 大阪市
 ビルマ戦線敗走日記……………江口 萬 大和市
 ガンに冒された妻への鎮魂記……………鷹野 三治 東京都
 ヤキトリ稼業は勝ち組商売……………大牟礼光雄 京都市
 阪本流あべこべ塾……………阪本 晴子 箕面市
 米寿記念誌 老向麗……………田中 静治 生駒郡
 人生浮雲の如し……………渡辺 公典 大阪市
 虜囚の果てに……………真弓 一郎 守口市
 白線帽のうた……………南 忠一 宝塚市
 余燼 さよなら国鉄……………田中 静治 生駒郡
 四月の雪……………森田 道子 羽曳野市